

# 「津島を歩く」 歩いて気づく 数々の魅力

浅野 健

## 「信長の台所」といわれた津島

愛知県西部に位置する津島は、名古屋駅から名鉄に乗って二十五分程でアクセスできる人口六万人余りの歴史都市である。津島神社の門前町、かつ伊勢と尾張を結ぶ湊町として繁栄し、戦国武将の織田信長が津島の支援を受けて天下統一を目指したことから「信長の台所」といわれている。

このような歴史を背景として、津島の観光情報としてよく紹介されるのは、津島神社、津島神社の催事である夏の天王祭り、山車が集結する津島秋祭であろう。だが、津島のまちなかを歩くと、他にも様々な魅力が存在する。今回は、名鉄津島駅と津島神社を東西一直線で結ぶメインストリート「天王通り」にスポットを当て、その周辺を歩き、その魅力をお伝えしたい。



メインストリート「天王通り」

## 名鉄津島駅から天王通りへ

名鉄津島駅から天王通りに入って二分程歩いた左手に、赤色の鳥居が見えてくる。津島における御朱印ブームの火付け役となった観音寺で、この御朱印を入手するために休日には何十人もの人々が集まることもある。周辺には、興禅寺、蓮台寺なども立地し、津島駅から最も近くの寺集積地だ。

観音寺から天王通りに戻ってさらに歩を進めると、シャッター街の中にも所々空き店舗を活用して新たなお店が少しずつ見られるようになってきている。その中の一つ、本格煮込料理の食堂「キッチン・リエゾン」は二〇一八年一〇月にオープンしたばかりのお店で、地元の野菜をふんだんに使い、都内レストランで経験を積んだ

シェフが料理を提供するお店である。連日予約が入る人気店となっている。

## 本町筋とゲストハウス

天王通りをさらに進むと、本町筋と交差する。名古屋城下町と湊町津島を結んだ旧街道で、銀行建築を活用した津島市観光交流センター（国登録有形文化財）、糺屋、米屋、花屋、料亭など昔からの店舗や、町家や蔵を使って新たに开店したカフェやギャラリなども見ることがができる。歴史を色濃く残すスポットだ。

その中で、本町筋周辺に古民家を活用したゲストハウスが三軒オープンした。うち二軒は天王通り沿いに立地し、一軒は天王通りと本町筋近くの路地に立地している。津島での滞在時間を長くする拠点として期待される。



ゲストハウスの1つ「橋詰の家」



路地名前を示す案内板

行先を示す案内板(左)と旧町名を示す案内板(右)

## 路地へといざなう案内板

天王通り周辺には、旧町名を示した案内板や、路面に埋め込まれて路地名を示す案内板も近年整備されている。歩く道筋で歴史を知ることができ、天王通りから周辺の路地へといざなうことができる。

## 歩くからこそ気づく魅力

津島には、他にも山車（蔵）、繊維産業の工場など紹介できる魅力はあるが、いずれも自動車を通り過ぎると見過ごしがちな小さなものばかりである。現状では、天王通りを行き交うのは自動車が主で人通りが少なく、人々を惹きつけるには時間を要する。歩いて気づく数々の津島の魅力を今後も発信していく必要があると改めて感じた。